

修 士 論 文 要 旨

看護学研究科 看護学専攻	広域看護学分野 公衆衛生看護学領域	学籍番号 氏 名	215601 大森 隼一郎
論文題目	統合失調症患者の地域生活継続のために精神科救急病棟看護師が重要と考える看護		
キーワード	精神看護 精神科救急病棟 統合失調症 地域生活継続 因子分析		
<p>1. 背景</p> <p>精神科救急病棟（以下、救急病棟）においては早期退院を重視し、3か月という短期間で治療を完結させるため、退院後早期の再入院が課題となっている。先行研究では、統合失調症患者の再入院の課題解決を含め、退院後の生活支援という視点で論じられていたが、これらの看護だけでは統合失調症患者の地域生活継続の支援としては不十分と考えられる。そこで、救急病棟で統合失調症患者に対して、入院から退院までの3か月間に行われているあらゆる側面の看護に関して、退院後の地域生活を継続させていくために重要な看護という視点から、病棟看護師がどのような認識の枠組みを持っているのか、その因子構造を明らかにすることを目的とする。</p> <p>2. 方法</p> <p>自記式質問紙調査法による量的研究で探索的因子分析とした。調査協力者は、国内で救急病棟を持つ130施設の看護師のうち、管理職を除く救急病棟経験が通算3年以上の看護師とした。質問紙は、先行研究から「精神科救急病棟」「統合失調症」「地域生活継続」という視点で抽出した64の看護項目について、地域生活継続という視点で重要度を測るために5段階評価で作成し、基礎情報項目として性別、年齢など5項目を含め回答を依頼した。分析方法は、基礎情報項目、64の看護項目について、記述統計量を算出した。64の看護項目については、因子分析を行い、因子構造を確認し、個々の因子について命名を行った。抽出された各因子に高い負荷量を示した項目の平均値を各因子得点とし、因子間の関係を明らかにした。本研究は三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得て行った（通知書番号165002）。</p> <p>3. 結果</p> <p>626名のうち321名（回収率51.3%）から回答があり、欠損値を含むデータは除外し276名を有効回答とした（有効回答率44.1%）。因子分析の結果、4因子41項目が抽出された。第1因子は【本人・家族を対象とした退院後の生活調整】で20項目から構成され、本人と家族を一つの単位とし退院後の服薬継続の必要性を話し合うなどの内容であった。第2因子は【患者看護師関係の構築と発展】で12項目から構成され、患者の安心・安全感を確保するなどの内容であった。第3因子は【服薬と睡眠の調整】で5項目から構成されていた。第4因子は【物理的な環境調整】で4項目から構成されていた。因子間の相関について、第1因子と第2因子と第3因子の因子間においては互いに有意な正の相関を示した。また、第2因子と第3因子、第2因子と第4因子の因子間において有意な正の相関を示した。</p> <p>4. 考察</p> <p>救急病棟看護師が統合失調症患者の地域生活継続のために重要であると認識していたこれら4因子は、統合失調症の急性期における回復プロセスに沿った看護の分類とは異なる枠組みであったと言える。そして、これら4因子の相関関係に対して著者の実践経験から、【物理的な環境調整】を行うことで、【患者看護師関係の構築と発展】に繋げることができるのではないかと考えられる。また、【服薬と睡眠の調整】を行うことで、【患者看護師関係の構築と発展】に繋げることができるのではないかと考えられる。さらに、【患者看護師関係の構築と発展】と【服薬と睡眠の調整】を行うことで、【本人・家族を対象とした退院後の生活調整】に繋げることができるのではないかと考えられる。地域生活継続という視点で以上の仮説が考えられた。</p>			

